

# 年末年始のお知らせ

12月27日から1月4日まで事務所はお休みさせていただきます。  
 1月5日から業務開始となりますので、よろしくお願いたします。  
 岩手県建設労働組合連合会  
 中央建設国保岩手県支部

# 建 労 い わ て 月 刊 号

発行所  
 岩手県建設労働組合連合会  
 教 宣 部  
 盛岡市本宮一丁目7番27号  
 電話 019-631-3280  
 FAX 019-635-4015  
 発行者 藤井泰男

## 対応し取り組む 安全衛生対策等について要請

11月20日、毎年行っている岩手労働局との意見交流を行いました。岩手県連からは、会長、鈴木副会長、高館社保労働対策部長含む6名、盛岡建設労働組合（以後盛岡とする）から2名の参加。岩手労働局からは10名の参加でした。

始めに、齋藤県連会長から岩手労働局労働基準監督課の高橋嘉寿満課長に要請書を手渡しました。その後、岩手労働局、岩手県連の参加者紹介が行われた後、佐藤書記長より要請事項の説明がありました。説明の後、岩手労働局より要請事項に対して、制度に係る物、費用補助等については厚生労働省に報告し、岩手としてできるものは対応し取り組んで行くとの回答がありました。今回の意見交流では、主

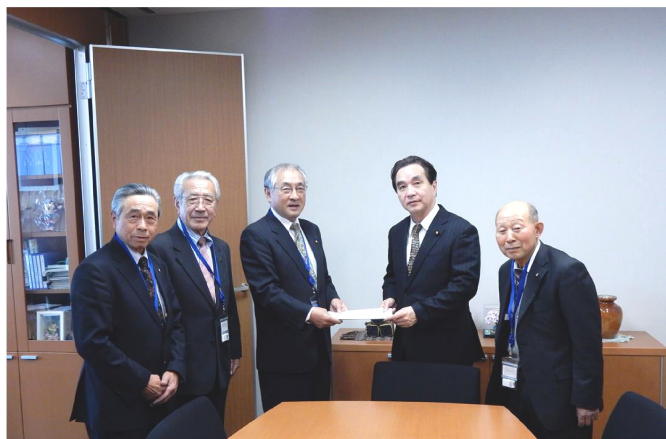
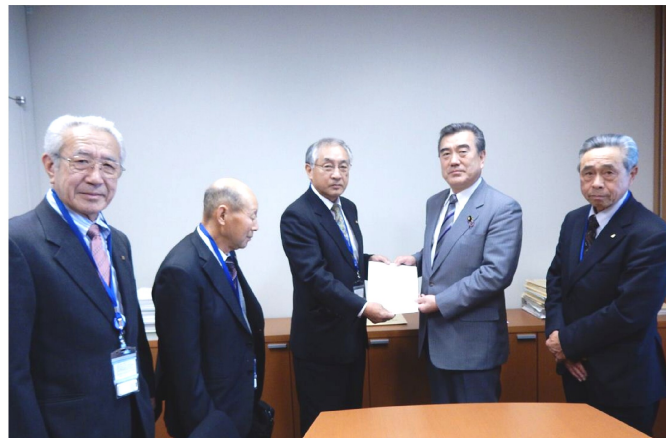


要請書を手渡す齋藤県連会長

に安全衛生対策について実際の現場での安全パトロールを行った取り組み内容を、岩手県連と盛岡合わせて3名から報告しました。その中で、高館社保労働部長からは、北上で行われた安全パトロールの中で「冬期間の現場では足元が滑りやすくなるので、より一層注意してほしい」という話があったと発表しました。

意見交流の最後に、岩手県連の中川書記より、医療機関で「肺ガン」と診断された患者がいた時は、胸膜ブランクについても確認してほしいこと。沿岸・被災地では、震災により建設作業従事者の確認書類が整うのが困難なので、配慮を

【県連 鈴木（章）記】  
 岩手県では平成27年2月に「公契約条例」を発表することになっている。業者が、適正な賃金を支払うような条例に向けて注視していきたい。  
 安倍首相が、突然、衆議院を解散し「何に1票を」と思っている仲間も多いと思う。  
 私達の要求である「建設国保」への予算確保であり、賛同できる政党へ託したいものだ。  
 【県連会長 齋藤徳重】



岩手県選出の参議院議員へ要請書を手渡す  
 写真上：主演 了参議院議員  
 写真下：平野 達男参議院議員

もであり、県選出の参議院議員のみの要請行動となりました。齋藤会長を含む4名が参議院議員会館にて主演了、平野達男両議員と直接面会し、「建設国保育成・強化に対する要請書」を手渡ししました。

主演議員からは、「予算獲得に向けて、必ず期待に添えるよう頑張る」と力強い言葉を頂き、この後の決起大会にも激励へ訪れるとの事でした。

また、平野議員は「建設国保の補助金の重要性は、よく理解している」と話しました。

そして、一向に進まない震災復興についても触れ、「震災から3年8ヶ月が経過したが、住宅着工が大幅に遅れている。資材不足や消費税増税の影響もあるよ

うだが、岩手県に対して、一刻も早く進めるよう申し上げている」と、自身も現地へ赴いた現状について、多くの感想を述べていました。

決起大会には、全国47県連・組合から5028名が参加しました。

全建総連勝野書記長より、「建設国保を巡る情勢は、『市町村国保の都道府県単一化』や『国保組合に対する補助率の見直し』などで大変厳しい。議員要請やハガキ要請運動を大きな力としてやっていきたい」と決意を述べました。

最後に「予算確保」や「賃金上昇」を日比谷公園からデモ行進を行い、私たちの要求を訴えました。

【県連副会長 中央ブロック 菅原記】

仮設住宅に入っている人は高年齢者が多く、若い人は内陸にアパートを借りて住んでいる。  
 自立再建を望んでいるが、宅地造成が遅れている。仮設生活も来年度が限度であると思うので、引き続き首都圏のみならず「復興住宅デー」を行い、住民を励まし相談相手にならなければならない。  
 県内の賃金は、2年連続で公共工事設計労務単価が値上がりしたが、実際には上がっていたことが8月の賃金アンケートで出ている。  
 若者が育つ賃金を目指して運動してきたが、進んでいない。  
 岩手県では平成27年2月に「公契約条例」を発表することになっている。

## 国会議員要請・中央総決起大会 現行水準確保へ 必ず期待に添えるよう頑張る

11月19日に全建総連中央総決起大会（以下決起大会）が日比谷公園野外音楽堂で開催されました。岩手県連から10名が参加し、併せて国会議員要請行動も行いました。今回は前日に安倍首相が衆議院解散を表明したこと

## きずな

今年も残すところ後わずか。早いものである。振り返ってみると震災から3年9ヶ月となるが、被災地の状況は大きく変わっていない。